

海外安全対策情報（２０２３年第１四半期）

在ギリシャ日本国大使館

1 社会・治安情勢

新型コロナウイルス感染対策として、ギリシャ政府は一部の機関、場所を除いてマスクの着用を不要し、国内制限措置についても更新の度に日付のみを延長するなど、特段政策に大きな変化は見受けられない。ワクチン推進など、ギリシャ政府の各種政策に対する抗議集会が散発的に行われているが、規模も小さく、治安への影響は少ない。

- （１）閑散期ではあるが、依然としてアテネ市内での窃盗事件が多発しているため、シーズンに関わらず注意が必要である。
- （２）アテネでは各種労働組合等によるデモや抗議集会が連日のように行われている。大半は平和的に行われるが、現在ギリシャ警察の行動に対する抗議が頻発し、一部が暴徒化することもあり、一定の注意が必要。
- （３）アナキストグループの活動が活発であり、様々な口実、特に国際情勢に合わせて政府関連施設、企業、各国大使館等に対する攻撃を行っている。今後、何らかの理由で日本関連施設が標的となる可能性も排除できない。
- （４）フェリーや地下鉄などの公共交通機関が全面的に運休する大規模なストライキが、度々行われるほか、上記（３）に伴う交通規制も行われている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

現在、パンデミック禍で当地への邦人旅客数が大幅に減少した影響もあり、邦人被害は一時的に少なくなっているものの、アテネでは邦人の盗難被害が極めて多く発生しており、特に地下鉄車内や駅、シンタグマ広場周辺に被害が集中している。主に腕利きの犯罪集団による犯行であり、在留邦人や旅慣れた旅行者でさえ多くの被害に遭っている。

【代表的な邦人被害事案の手口】

- ア 邦人被害では、アテネの地下鉄や駅におけるスリが最も多く、知らぬ間にリュックサックや鞆を開けられ財布等を盗まれている。被害防止のため、リュックサック等を身体の前でしっかり保持することが重要である。
- イ シンタグマ広場やオモニアでは、話しかけられたり、液体をかけられたりして、荷物から目を離した隙に鞆などを盗まれる被害が多発している。

3 テロ・爆弾事件発生状況

当地においてパキスタン人がユダヤ教徒や関連施設を対象としたテロ攻撃行為を企てたとして逮捕されるなど、当地テロ発生の可能性はゼロではない。また、アナキスト等による閉店後の店舗を狙った爆発物事案なども発生している。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人等に対する誘拐事件及び脅迫事件は把握していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

具体的な問題は把握していないが、当地では、環境問題や労働者の待遇、解雇や作業事故などを口実として、アナキストが企業を攻撃するケースが多く発生しており、注意を要する。